

鷓川・沙流川流域委員会（第4回）議事要旨

- 日 時：令和7年8月19日（火）13：30～16：00
- 開催場所：むかわ温泉四季の館 1階 研修室A・B（WEB開催併用）
- 出席者：中津川委員長、井上委員、木村委員、楠田委員、小坂委員、鈴木委員、谷口委員（WEB）、中村委員（以上8名）※委員長以降の順は五十音順
- 議題：鷓川水系河川整備計画〔変更〕（原案）へのご意見とその回答について、鷓川直轄河川改修事業の事業評価について

■議事要旨

議題-1：鷓川水系河川整備計画〔変更〕（原案）へのご意見とその回答について

【委員】

- ・ 資料2の18ページ左側のフローについて、「保全・回復優先種」と「保全・回復優先種から河川整備計画に記載する種」と「モニタリング指標種」の三つを示しているが、混乱を招く可能性があるため記載について見直した方がよい。
- ・ 希少種がいる場所をまずは「保護」することを優先する必要がある。河川整備計画（案）51ページの17行目の「保全」は意味が広いため、記載について見直した方がよい。
- ・ モニタリングは、河川管理者のみではなく、企業や地域の人たちと繋がって環境目標を達成するような主旨の記載にしてはどうか。
- ・ 資料2の21、22ページに「指標性が低い」と記載されているが、何を意味するのか。

【事務局】

- ・ 保全・回復優先種の中から、河川整備計画策定後にモニタリング指標種を選定することとしているため、「保全・回復優先種から河川整備計画に記載する種」は削除する。フローについては、「4. 優先的に保全・回復する種の抽出」までとする。
- ・ ご指摘を踏まえ、「保全」に関する記載については修正する。
- ・ モニタリングについては、地域と協力して進めていきたいと考えているため、ご指摘を踏まえ、河川整備計画に反映する。
- ・ 「指標性が低い」は、生息・生育・繁殖環境が明らかではない種や、河川環境を主として利用していない種のことを示している。

【委員】

河川整備計画（案）本文92ページの7行目では「確認する」と記載され、モニタリングをして終わってしまう印象を受ける。モニタリング結果をどのように評価し、どう検討するのかをより具体的に記載してはどうか。

【事務局】

- ・ ご指摘を踏まえ、「…出現状況等を確認する。」を「…出現状況等を確認したうえで検討する。」に修正する。

【委員】

- ・ これまでの河川整備は行政が主体となり実施してきた経緯があるが、整備が妥当であったか否か評価する仕組み作りが必要なのではないか。

【事務局】

- ・ 河川整備を進めるにあたっては、特に河川環境において、どこを保護し、どこを掘削するか全体を俯瞰して進める必要があるため、学識者・地域の方を含めた協議体制を検討したい。その進捗状況は、流域委員会等を活用し、定期的に報告することも考えている。

【委員】

- ・ 平取ダムの建設工事では、アイヌ文化の重要なチノミシリの問題等、様々な課題を開発局と地域が一つ一つ丁寧に解決してきた。国と先住民とが工事に関するものを一緒に解決していく取り組みは、他に例がないと評価されている。また、沙流川の河道掘削では、事前に有用植物の調査を行い、保全すべきものは保全するという丁寧な対応を実施している。このような良い前例は、鶴川でも同様の丁寧な対応をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 平取ダムや沙流川での丁寧な対応事例を踏まえ、鶴川でも同様に地域との協議を重視して進めていきたい。

【委員】

- ・ 洪水時の河川水位などの河川情報があっても、災害時に自ら調べ、情報にたどり着けないことがハードルとなる。アクセシビリティの向上をリスクコミュニケーションの中で図らないと、災害時に命や地域を守ることにつながらないため、河川整備計画（案）本文62ページの4行目を見直して頂きたい。

【事務局】

- ・ ご指摘を踏まえ、「伝達できる体制整備」ではなく、「伝わる体制整備」に修正する。

【委員】

資料4の21ページの図1-12に記載のリスク評価について、過去実験、2℃上昇実験、4℃上昇実験とリスクが上昇するにつれて増加する浸水面積や被害額の倍率について

も記載してはどうか。

【事務局】

- ・ ご指摘を踏まえ、数値もあわせて記載する。

【委員長】

- ・ 河川整備計画（案）本文49ページの18行目について、「概ね同程度の治水安全度を確保する」と書かれているが、「概ね同程度」は「同程度」でよいのではないか。

【事務局】

- ・ ご指摘を踏まえ、「概ね」は削除する。

議題-2：鵜川直轄河川改修事業の事業評価について

【委員長】

- ・ 費用対効果には、昨今の資材高騰等も考慮されているのか。また、河道掘削断面は定規断面ではなく、環境に配慮した断面にするなどコストがかかると思うが、それらも考慮されているのか。

【事務局】

- ・ 資料3の29ページに示す通り、感度分析を行うことで価格変動等を一定見込むとともに、5年ごとの再評価で実施に応じた費用等も随時見直していくこととしている。

【委員】

- ・ 資料3の12ページについて、流域の9割を森林が占めていることに対し、河川との関わりを考えるのか。

【事務局】

- ・ 流域治水として流域全体で取り組んでいくものと考えており、森林を管理する林野庁等と連携していく。

以 上